

平成20年度 中心市街地活性化事業の主な動き

松江市歴史資料館(仮称)の建築工事着工

(歴史資料館整備事業 [p65])

平成22年秋の開館を目指す「松江市歴史資料館(仮称)」の建築工事が着工しました。
(平成21年1月30日 起工式)



松江赤十字病院現地建替工事が進捗

(母衣町地区暮らし・賑わい再生事業 [p68])

平成24年度の開業を目指し、新病院の建設工事が継続されており、平成20年度は、高層棟(主に病棟、地下1階、地上14階建て)の建築工事が施工中です。(高層棟は平成21年度竣工予定)



南殿町地区市街地再開発ビルの竣工

(南殿町地区第1種市街地再開発事業 [p72])

平成20年6月、南殿町地区市街地再開発ビルが竣工しました。(平成20年6月30日竣工式)
この再開発ビル西棟の住宅部分は全66戸が売却済み。商業部分については、再開発事業の完了に必要な保留床5区画(所有者が未定の区画)の売却ができていないため、現在、南殿町地区市街地再開発組合(施行主体)において、販促活動を継続中。



若者定住促進事業費補助金の開始

(若者定住促進事業費補助金 [p73])

新しく住まいを探されるタイミングの新婚世帯やUターンされる若い皆さんの住宅費の負担を少しでも軽くし、まちなかでの暮らしに目を向けていただけるよう、まちなかの民間賃貸住宅に居住する若年層の家賃助成(松江市若年者まちなか住宅家賃助成事業補助金)を平成20年10月からスタートしました。(上限1万円/月、36ヶ月以内)

(平成20年度補助金交付決定件数:7件(平成21年2月末現在))

問合せ件数62件(うち詳細説明後に申請書を渡した件数17件、交付決定数はその内数です。)

松江サティ(片倉フィラチャー)の増築・増床

(第二種大規模小売店舗立地法特例区域制度の活用 [p81])

中心市街区域内の大規模小売店舗である松江サティが、平成20年9月、増築工事を完了し、リニューアルオープンしました。これにより、松江サティの店舗面積は約30,900㎡(増床前約22,300㎡)に拡大しました。同店の増築・増床は、第二種大規模小売店舗立地法特例区域制度を活用して実施されました。(特例区域適用、平成20年1月)

宍道湖しじみ館が開館

(宍道湖しじみ館整備事業 [p82])

松江しんじ湖温泉内にある「松江名産センター」を改装し、「宍道湖しじみ館」が開館(平成21年1月31日開業)しました。同館は、“学ぶ”、“買う”、“食べる”、“体験する”をコンセプトとしており、シジミの生態やシジミ漁業などに関する展示、生シジミの直販コーナーなどが整備されました。また、同館南側には足湯整備も予定しており、現在、施工中です。



タウンマネージャーが松江市中心市街地活性化協議会に就任

(まちづくりプロデューサー設置事業 [p82])

平成20年9月より、松江市中心市街地活性化協議会タウンマネージャーとして久保里砂子氏が就任されました。平成20年度は月5日間松江市に滞在。平成21年度からは月15日間滞在の予定。

Ruby City MATSUE プロジェクトの展開

(Ruby City Matsue Project [p89])

松江駅前に設置した“松江オープンソースラボ”を拠点として、「Ruby City MATSUE プロジェクト」を展開しています。平成20年度には、(株)スマートスタイル、パブ日立ソフト(株)、日立ソフトエンジニアリング(株)がプログラミング言語“Ruby”での製品開発を目指し、松江市に進出しました。(これにより、テルサ別館のテナント区画が全て埋まりました。)また、平成20年9月、全国より参加者が集う「オープンソースカンファレンス2008 Shimane」が松江テルサを会場として開催されるなど、中心市街地への集客に好循環をもたらしています。

(「Ruby」は、松江市在住のまつもとゆきひろ氏によって開発されたオープンソースのプログラミング言語。中心市街地の空き店舗物件情報を提供する“空店舗・空床紹介システム”(空き店舗空き床紹介事業[p77])や、“松江SNS”にも「Ruby」が活用されています。)